

# グループホーム しじみ苑

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	理念は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を掲げています。入居者さんをサポートすることを重視する事で、地域との連携・家族との関わりを大切にすることで、お互いがお互いを思いあいながらその人がその人らしく生活を続けていける様に支援している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	理念は、リビングの目につきやすい所に掲げ、入居者・家族・スタッフも常に確認が出来る様に工夫しています。また、ミーティングでは理事長も参加し、改めて意識付けが図れるように話し合いを行い日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	家族とは、毎月苑だよりを郵送する事で苑での生活を報告すると共に面会時には状況報告を行い様々な問題等が発生しても慣れ親しんだ場所で暮らし続けられる様に話し合いをしている。地域の方々とは、運営推進会議等の場で情報交換・季節行事などに参加する事で理解が得られるように努めている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	近隣には、保育園・小学校・中学校・併設したケアハウスがあり、その周辺の住民も含めた行事などに参加したり、苑での行事などにも参加していただける様につとめている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	併設しているケアハウスと合同での行事や近隣の保育園・小学校・中学校などの交流を取り入れたり、地域の敬老会・文化祭に参加したりと地域との関わりに努めている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組みは無い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について取り入れられる部分については改善をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政職員・区長・民生委員・家族で構成され、2ヵ月に1回開催しています。内容は事業報告や入居者の生活状況などの報告を行い、参加者の方々からはアドバイスを受け、意見交換を行っています。その意見を参考にサービス向上に活かして行きたい。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は同じ市町村住民である代表者やスタッフとの交流があるので、会議以外でも、分からない事・共に取り組まなくてはいけない事に対して相談などが出来ているので、連携してサービスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修・情報を習得する所があまりないため、家族や必要に応じて説明できる体制ではない。		行政などに研修を行ってもらえるように相談したり、各自が参考資料などで利用し熟知出来る様に努力する。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する各職員の認識がもとめられているが、虐待にも色々なケースがあるので、資料等を利用し、改めて高齢者虐待を考える機会を設けたい。		日頃の業務の中で事故防止を図る上で、強い言葉による抑制と見られてしまうことがあるので、職員一人一人が言葉の使い方により心理状況を悪化させてしまうこともあるという事を理解した環境作りをして行きたい。

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはまず、苑の方針・家族の連携の協力をお願いするとともに、認知症という疾病にたいして理解を頂くとともに、来苑時や電話などにより状況報告を行ったりお互い相談しやすい関係作りに努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が不満や苦情を訴えた時は本人と管理者が十分話し合い、それを、職員に報告・結果を説明し今後の対応を行うと共に家族にも報告し意見等を聞き反映させる。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の家族は定期に来苑される家族にはその都度報告をしている。遠方に在住の家族には、電話をし、その時の状況報告をしたり毎月作成している手作りの苑だより発行し苑での暮らしぶりをお知らせしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に接しているが開設から投書されたことは無いが、直接、管理者や職員に以前は苦情が挙げられ事があり、その時は、代表者を交え早急にミーティングを行い問題点に対する改善方法を話し合い取り組むようにする。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ミーティングを開催しており業務や利用者に関わる事等の意見や提案を求めている。また、ミーティングに限らず、日頃の業務を遂行していく中で、意見が言いやすい環境作りに心掛けて運営に反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>グループホームで定められている職員数の配置を理解してもらい業務に支障のないような勤務体制が組めるようにしている。利用者や家族の状況変化、要望に対して対応が出来るように努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職の際は、利用者へのダメージを少なくすることを最小限にすることで、新たな職員には、十分な引き継ぎを行うことで利用者に対する不安感に配慮している。</p>		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>募集・採用にあたっては、年齢・性別などの制限はなく、ヘルパー2級の資格を取得していることを基本にしている。本人の意欲や入居者とのなじみの関係を考慮し採用の際は、代表者と管理者が決定している。採用後は介護福祉士を取得してほしい事を伝える。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>研修の機会が少なく、日々のケアやサービス提供・ミーティングの際に入居者への対応・コミュニケーションなどについて話し合いを行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修への参加を促し、介護の研修だけでなく、病院での栄養指導に参加・救命救急講習に参加する事で職員の向上と働きながらトレーニングを進めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者との交流する機会を行政を通じて打診したいと考えている。同業者同士で情報交換などしたいと前向きに取り組む姿勢がある。</p>		<p>行政との協力のもと、同業者との情報交換を行う機械を設けたが同業者とのネットワークを高める事が出来なかったため、病院などの研修情報を取り組めるように働きかけた。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>代表者が食事会をいただいたり、慰安旅行に行かせて頂いてます。全員が一緒に行くことが出来ないので何回かに別れ、職員の状況にて対応していける。</p>		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			今後は年度の初めに個人個人の目標を定め達成度に応じた処遇を試みたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活する上で、困ったことや不安に思う事を日頃からコミュニケーションを多く取るように心がけている。また、本人・家族の希望を聞いた上で本人と直接話せる雰囲気を作るように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が遠慮なく、相談してもらえる雰囲気作りに努めています。家族間には色々な問題を抱えている事が多いので、苑に対しては、不安に思っている事や悩んでいることなどを遠慮せずに話をして頂ける様にこころがけている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ちを1番に対応する中で、家族との連携を取りながら、日々の生活の中からその人に合ったサービス提供・支援が出来る様に努める。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学して頂き、その上で入居してもらうように努めている。また、利用者は環境の変化に非常に敏感であり、良くも悪くもしてしまうので家族から生活歴・性格・仕事の経歴等の情報を得るようにし、苑での生活に少しずつ馴染んでいただける様にコミュニケーションなどを多く取るように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にしながらも、状況によっては、喜び・悲しみ・怒り・泣いたり・笑ったりとみんなだ共有し合える関係作りを築いている。人生の先輩であり日々の生活の中から本人の得意なものを見出し、役割を分担して頂いている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に問題や困っていることだけを話すのではなく、利用者が苑で見せる笑顔や楽しかった事を家族に話せることも、支援の一つと思うので家族と協力し合って利用者を支えながら関係作りに努めたい。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症という病気は進行することにより、家族は変化していく姿を受け入れない時があるので、利用者の状況を家族に理解していただく事でケアの内容を報告したり家族側からの要望を確認しながら良い関係作りが築けるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊を勧めているが現状は難しく、家族にも外泊が難しくてもせめて外出をすることで他者の方との交流のある人達との関わりを持ってもらえるように伝えている。面会には家族の面会があり、それ以外にも町内会の高齢者や友人が来られている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格上合う合わない事がある。一緒に生活する中で生じてくる利用者同士の問題について、職員が上手く間に入りフォローしながら関係が円滑に築ける様に努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用契約が終了の状況になった場合に、家族にとっては次の受け入れ先の事が心配される場合が多いため、不安に陥る家族に対して、アドバイスをするとともに縁があればまた、新たに関係が築けていけるような関係作りを大切にしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中で本人の思いや要望を把握するよう努めている。本人のだけの情報だけでは不十分な時は家族からも情報を把握するように努めている。また、職員間で情報交換することで、共有して一人一人に合った支援が出来るようにしている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や思い出などをコミュニケーションや家族からの情報から把握するように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々生活する中で、何らかのサインが現れる事があるので、日頃からの個人の状態観察を行いながら、介護記録に記入し状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活歴や常日頃からの生活パターンなどを把握を行い、本人・家族・職員とケアに関わる方々と情報交換などを話し合い、ニーズに対応した介護記録を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期・長期目標を設定し、1ヶ月のモニタリング・3ヶ月の評価を行うなど介護計画の見直しを行っている。また、突然の変化などが生じた場合は早急に計画の見直しを行い新たな計画を作成する。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活パターンを観察し、些細な事・気づいたこと・状態の変化等を介護記録に記入し、情報をスタッフ間で共有し、その中から支援の見直しにいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ系列の施設(ケアハウス)が併設しているので、行事等のイベントでは合同で取り組みを行っているので色々な楽しみがある。また、家族の要望や状況によっては極力希望に添える様に支援している。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じて、地域の民生委員・区長・市町村との交流も円滑にはかれるようになり、季節の行事(敬老会・文化祭)地域の小学校との交流会・運動会の見学・中学校体験学習・保育園との交流と協力しながら支援している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の意向を聞きいれ情報交換を行い。その上で生活パターン・リズムをつかさどり、本人・家族の要望を反映させ支援をしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は今現在特になし。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を聞き、かかりつけの病院での受診継続を支援している。本人の状態変化や必要と判断した場合は専門医への受診承諾を家族や本人に説明を行って対応している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診の時には、日々の状態を観察・相談したい事などを報告し、常時診断が受けられるように支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	個人病院であれば顔なじみの関係の築けるが、総合病院では、相談したりするような関係、環境は難しい。ただ、今年より週1回訪問看護が受診・相談したりしている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院が必要になった場合、苑の意向を病院側に伝える。早期に退院が出来る様に病院と情報交換を行っている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化に伴い、看取りケアについての話は出ているが、現状まだ明確になっていない。スタッフの中で看取りに対して理解が得られない部分がある。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	医療・訪問看護・スタッフとが看取り等に関しての連携が出来る様に話し合いを行うことで支援している。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	環境の変化で、認知症の進行が懸念されるので、職員や家族との情報交換や話し合いをしながら十分検討し本人にストレス・不安を与えないように考慮しながら対応している。		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者の生活歴を受け止め、臨機応変に傾聴的コミュニケーションの対応を大切にしつつ今の生活を大切であることを心がけている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	長年生活してきたために、団体生活の中にも自己主張があるので、同調してコミュニケーションを取るながら納得しながら暮らせるように工夫している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や生活リズムにそった過ごし方が出来る様に心がけている。日によっては、業務に追われて心にゆとりのないスタッフが自分ほ本位の対応になりがちになる時は他のスタッフがさりげなくフォロー - したりと本人に精神的負担をかける様に配慮・対応に心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者なんの希望を聞き、美容院などに行く時は、本人の好きな服に着替えてもらったりして支援を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片麻痺や皮膚疾患のある方がいる為、材料を切ったりができないので、野菜の掃除や食事の後かたづけ等で自分の出来る範囲のことをして頂いている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・たばこを希望する方がいない。飲み物はお茶・ジュース・しょうが湯など季節に合った飲み物を提供し、おやつも和菓子や手作りなどを工夫して提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンチェックを確認しながら随時誘導を行っている。失禁・排便時は本人のプライバシーを傷つけない様に介助を提供している。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに行っている。本人の希望で入りたくない時は、本人の状態を見ながら入浴を行ったり、体調不良により入浴できない時は清拭などで支援している。また、心臓病・皮膚疾患の利用者がいるので医療と連携を図っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを把握しながら居屋で休息をしてもらい夜間の睡眠に支障がないように配慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自主的に手伝いをされる利用者もいればそうでない方もいるので、役割を提供する事でお手伝いをして下さるので、本人の負担にならない様に気分転換・活動機会を提供できるように心がけている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の困難な利用者に対しては、家族にも説明した上で預かり対応をしている。買い物に行ったときなどは、支払いをする際は見守りを行いながら使えるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のケアハウスや地藏さん参り等、天気・体調の良い時に屋外活動の支援をしている。		屋外散歩の活動は利用者みんなで声かけを行い、車イス・車イスを押す人・歩行器・杖・手引きを、利用して屋外散歩を行い季節感を感じていただいている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の屋外レク以外に家族と外出されしている。希望があれば買い物に出かける機会を提供できるように努めている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から利用者へ電話がかかってきたり、利用者の希望時は状況に応じて電話をかける支援を行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設という印象から面会・来訪者にとって行きづらい等といった事のない様に、気軽に来苑出来る様に家族・知人などとコミュニケーションを図るなどし居心地良く過ごして頂くように工夫している。		
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や資料などを利用し、身体拘束について全スタッフが理解できるようにミーティング等ではなしをして行きたい。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、施錠しなくても安心して生活できる体制がある。玄関はセンサーが設置されており、日中は鍵をかけない取り組みがある。自由に活動が出来る様にしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の殆どがリビングで過ごす為、必ずスタッフが見守りを行うよう様子を把握している。移動介助が必要な方が不意に1人で立ち上がろうとしたりするので転倒防止を兼ねた見守り・安全確認を行っている。また、居屋で過ごす利用者に対しては定期的に訪室し様子を伺っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理可能・困難は別としハサミ等の物品は制限せずに自己管理をして頂いている。針に関しては誤嚥・失くしたり等の事故も考えられるため、自己管理の可能の方でも使う前後には確認をしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・火災マニュアルを準備し、各自が把握できるようにしている。研修等の機会があれば研修も学んでもらっている。利用者が苑での生活に安心・安全に過ごせるように取り組んでいる。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアルを作成しいつでも見れるようにし、連携経路等もミーティングで認識するようにしている。また、気になった時は職員だミーティングを行うようにしている。		外部講習(消防署)を取り入れ、応急処置・手当・AEDの体験等を取り入れている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防・避難訓練を実施している。もし、災害・火災等が生じた際は地域住民に協力が得られるように運営推進会議の際に働きかけを行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況によっては家族と話し合いを行っている。また、定期的に面会のある家族にはその都度、利用者の状況を伝え利用者の暮らしを把握して頂ける様にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルチェック以外にもその時の利用者の状態によっては臨時バイタルチェックを行い、排泄・水分・睡眠・の各チェック表にて状況を把握できるようにしている。体調不良の時には訪問看護にアドバイスをいただいたり、早急のときは病院受診を行い対応する。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬はスタッフがきちんと把握できるように処方箋をいつでも確認出来る様にし、何のための薬なのか最低限度理解するように呼び掛けている。主治医・薬剤師からの注意事項等に関してはスタッフに情報を伝えている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や影響等をスタッフに情報を提供し、予防のためには水分量(1日最低800cc摂取)のチェック表に記録し水分補給している。食事は食物繊維をうまく取り入れ、運動も行っている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアがどれだけ重要か職員が理解し、利用者にも理解してもらえるように説明を行い、毎食後、必ず口腔ケアの声かけをし利用者の状態に応じた誘導や介助提供し清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分テックを行っており栄養管理・水分管理を行っている。食事・水分の制限がある人は、医療・家族と連携を取りながら対応している。水分量の少ない方にはゼリーなどにてその方に合った対応している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを準備し、季節に流行る感染症については注意を払い予防に努めている。インフルエンザは予防注射を行う、疥癬・ノロウイルスの感染症では資料・研修などで知識を学び、感染した際は、かかりつけ医や専門医と連携を取り対応している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やふきん等とはまめに塩素系の消毒液で消毒を行っている。食材に関しては、週2回(水・土)に冷蔵庫・収納などをチェックを行い、食材の賞味期限の確認と消毒などを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	苑周辺には空き地があるので季節の花・野菜などを作り季節感をあじわっていただくと共に、家族のその方の好きな花などを聞き、スタッフと一緒に作業をなどを行っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの共有空間にはソファがあり、いつでも思い思いにくつろげる空間となっている。窓も大きく、自分達で作った花壇が見える為季節ごとに咲く花を見る事ができる。バルコニーにも気軽に出入りできるので洗濯ものを干したりする。バリアフリーで手すりも設置され、安全性・利便性・衛生面に配慮し過ごせるように工夫している。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆どの利用者がリビングソファへと集まり、テレビ鑑賞・リハビリ・レクなどを行っている。一人になりたい時は自ら居室へ入りお昼寝いしたりと思い思いに過ごしてもらえるように工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に、本人・家族に今まで使用していた家具や使い慣れたものなどを持ってきていただいている。また、家族写真や手作り品などを飾る家庭的な雰囲気作りに努め、入居者が心地よく過ごせるように工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房に関しては利用者を確認を行いながら温度調節を行っている。掃除の時は全室の換気を行い、食事作りの内容によっては臭いがこもりがちになるので換気に気をつける。衣服にも気を付けている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態変化により、身体レベルにあわせ残存機能をいかした介助が出来る様にミーティングで職員の情報交換を行い自立支援が出来る様に工夫している。また、福祉用具が必要な場合は代表に相談を行い対応してもらってる。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症にも、個人差があるのでその人その人にあったものを見出すため、声かけ・コミュニケーションなどから本人にあった役割を提供し状況によってはホォローを行い一緒に活動する環境を大事にしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭内が広く利用者さんと一緒に作った花壇に花が咲くようになったので、天気の良い時は、散歩をしながら花の名前を教えあったり、草取りする事を楽しみにしている。ベランダでは、日光浴したり洗濯ものを干したり・取りこんだりすることを手伝ってもらったりと活動しています。		

グループホーム しじみ苑

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム しじみ苑

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)